

# 認定看護師教育基準カリキュラム

分野：慢性心不全看護

平成 28 年 3 月改正

(目的) 1. 安定期、増悪期、人生の最終段階にある慢性心不全患者とその家族に対し、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護実践ができる能力を育成する。 2. 安定期、増悪期、人生の最終段階にある慢性心不全患者とその家族の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して指導ができる能力を育成する。 3. 安定期、増悪期、人生の最終段階にある慢性心不全患者とその家族の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。 (期待される能力) 1. 心不全患者の身体及び認知・精神機能の的確なアセスメントができる。 2. 慢性心不全患者の心不全増悪因子の評価とモニタリングができる。 3. 症状緩和のためのマネジメントを行い、Quality of Life を高めるための療養生活行動を支援することができる。 4. 心不全の病態と慢性心不全患者の身体的・精神的・社会的な対象特性に応じて在宅療養を見据えた生活調整ができる。 5. 慢性心不全患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。 6. より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。 7. 慢性心不全看護の実践を通して役割モデルを示し、看護職者への指導・相談対応を行うことができる。			
教 科 目	内 容	時間数	
共通科目	<必修>		
	1. 看護管理	* 「共通科目：教科目のねらい」参照	15
	2. リーダーシップ		15
	3. 情報管理		15
	4. 看護倫理		15
	5. 指導		15
	6. 相談		15
	7. 文献検索・文献講読		15
	8. 臨床薬理学		15
	9. 医療安全管理		15
<選択>		小計 135	
10. 対人関係		15	
		小計 15	
		計	
		135 (+15)	

※当該分野では、「臨床薬理学」「医療安全管理」を必須とする。

教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	1. 心不全看護概論	1) 日本における循環器疾患の動向 2) 病期における心不全看護の現状と課題 3) 多職種連携と地域医療連携 4) 心不全患者の在宅療養の現状と課題 5) 慢性心不全看護認定看護師の役割 6) 慢性心不全看護のアウトカム評価	15
	2. 心不全の病態生理と診断及び治療	1) 心不全の定義、病態生理、心不全症状の発生機序について理解できる。 2) 心不全の診断及び治療について理解できる。	30
	3. 心不全の基礎疾患と合併症の診断及び治療	1) 心不全の基礎疾患と合併症の診断及び治療について理解できる。 2) 心臓リハビリテーションを含む治療について理解できる。	30
	4. 心不全患者の身体機能と認知・精神機能の評価	1) 心不全看護における身体機能と認知・精神機能評価の意義と目的・アセスメント方法を理解できる。	15

教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数	
専 門 科 目	5. 心不全患者・家族、重要他者の理解と支援	1) 心不全患者及び家族・重要他者の心理・社会状況を理解できる。 2) 心不全患者・家族・重要他者の心理・社会状況、倫理的問題を踏まえ、看護者の役割が理解できる。 3) 適切なケアに必要な理論、法律、制度について理解できる。	1) 心不全患者の心理・社会状況の理解 2) 心不全患者の家族・重要他者の理解 3) 心不全患者・家族への倫理的配慮 4) 支援に必要な理論 (1) 危機理論 (2) 成人学習理論 (3) セルフケアに関する理論 (セルフケア、自己効力感、行動変容理論、価値転換理論) (4) 家族援助論 5) 保健医療福祉制度と法律に基づく支援 (1) 社会資源の活用 (身体障害者福祉法・介護保険制度・高額医療制度・障害年金など) (2) 慢性心不全患者の在宅療養支援	30
	6. 慢性心不全患者の症状マネジメント	1) 心不全患者の主な症状を理解し、症状をコントロールするためのケアが実践できる。	1) 慢性心不全患者の体験している心不全症状 2) 主な症状へのケア (呼吸法、ポジショニング等を含む) (1) 呼吸困難 (2) 浮腫 (3) 動悸 (4) 倦怠感 (5) 不眠 (6) 不安、抑うつ	15
	7. 慢性心不全患者の生活調整	1) 安定期にある慢性心不全患者の危険因子管理と生活調整が実践できる。	1) 慢性心不全の危険因子管理と看護 (1) 病態の理解 (2) 冠危険因子のコントロール (3) 基礎疾患のコントロール 2) 慢性心不全の生活調整 (1) 活動と休息 (入浴負荷を含む) (2) 睡眠 (3) 食事と栄養 (4) 排泄 (5) 性生活 (6) 体重管理 (7) 薬物療法 (8) 感染予防 (免疫機能を含む) (9) メンタルヘルス、ストレスコーピング (10) 適正な社会的役割行動のためのライフサイクルの調整 (11) 緊急時の対応	30
	8. 慢性心不全患者の療養支援	1) 急性増悪回避のための療養支援が実践できる。 2) 慢性心不全患者の心臓リハビリテーションについて支援できる。	1) 急性増悪回避のためのセルフケア支援 (1) セルフモニタリング技術 ・呼吸・血圧・脈拍・体温 ・体重 ・自覚症状 (呼吸困難、浮腫、動悸、倦怠感、不眠、不安、抑うつ) ・服薬管理と副作用 2) 心臓リハビリテーションを受ける患者への支援	30

教 科 目		教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	9. 慢性心不全患者の意思決定と在宅療養支援	1) 非薬物療法を受ける慢性心不全患者のケアができる。 2) 慢性心不全患者の在宅療養に向けたケアができる。	1) 慢性心不全患者の意思決定支援 ・疾患治療への理解と支援 ・治療決定プロセスとアドヒアランスを高める支援 ・ソーシャルサポート、社会資源の活用 ・家族・重要他者への支援 2) 非薬物療法を受ける患者への支援 (ICD・CRT 植え込み患者、心移植待機患者、補助人工心臓を装着している患者、ASV を装着している患者など) 3) 在宅療養への支援 (1) 在宅療養支援の実際 (2) 在宅酸素療法を受ける患者の支援 4) 慢性心不全患者の緩和ケア (人生の最終段階におけるケアを含む)	30
	10. 慢性心不全患者の急性増悪時のケア	1) 慢性心不全患者の急性増悪時のアセスメントができる。 2) 急性増悪時のケアを実践できる。	1) 慢性心不全患者の急性増悪時のアセスメント (1) 身体状況 (不整脈、高血圧、心筋虚血、肺塞栓症、貧血、腎不全、低栄養、感染など) (2) ライフサイクルと生活状況 (塩分、水分、アルコール、妊娠、出産など) (3) 治療の状況 (服薬非遵守、治療薬の変更など) 2) 急性増悪時のケア (1) 慢性心不全急性増悪の徴候の早期発見と早期対処 (重篤化回避のための身体・症状モニタリング)	30
				小計 255

教 科 目		教科目のねらい	単 元	時間数
学 内 演 習	1. 学内演習	1) 慢性心不全患者の身体及び症状を的確にモニタリングし、長期療養過程を踏まえた看護過程の展開ができる。 2) 慢性心不全患者におけるコンサルテーションの具体的な展開方法について学ぶ。 3) 自己の看護実践事例を振り返り、客観的、理論的分析を行い、効果的なプレゼンテーションができる。	1) フィジカルアセスメント (心機能と身体活動性) (1) 心不全症状の評価とフィジカルアセスメント (問診・視診・触診・打診・聴診) 2) 慢性心不全患者の身体・症状モニタリング (1) 慢性心不全増悪因子のモニタリング (2) 慢性心不全の徴候のモニタリング ・心電図 ・胸部X線検査 ・血液検査 ・酸素飽和度 3) 慢性心不全患者の看護過程の展開 (1) 情報収集とアセスメント (2) ケアプランの作成と評価 (評価方法, 指標も含む) 4) 病棟、外来、在宅の継続ケアにおけるコンサルテーションの実際 (1) 慢性心不全患者の看護ケアに関するコンサルテーションプロセス 5) ケースレポート (1) 事例検討とプレゼンテーション	90
	2. 臨地実習	1) 慢性心不全患者に対し、看護チームや多職種と協働しながら、水準の高い看護実践を行い、他の看護職者に対して、指導、相談対応ができる能力を高める。	1) 看護過程：心不全の急性増悪から回復・慢性期にある患者を2名以上受け持ち、症状マネジメント、危険因子の評価・管理、生活調整支援、セルフケア支援に関する具体的な計画立案と実践、評価を行う。更に、実習カンファレンスにおいてそれぞれの事例検討を行い、スタッフと共有する。 2) 以下 (1) ~ (6) の事例から重複しない2例以上を選択し、療養支援プログラムを作成する。事例のうち1例は訪問看護・訪問診療を受けている在宅療養中の慢性心不全患者を含めることが望ましい。 (1) 再発を繰り返す慢性心不全患者 (2) 高齢の慢性心不全患者 (3) 糖尿病や腎障害などの合併症をもつ慢性心不全患者 (4) 高度先端医療を受ける慢性心不全患者 (5) 在宅療養中の慢性心不全患者 (6) 心不全による初回入院患者 3) 専門技術 (症状緩和のためのケア、生活調整支援、フィジカルアセスメント、重篤化回避のためのモニタリング等) を習得する。 4) 多職種協働カンファレンスや症例検討等の場において、積極的に発言し、職種間の連携を促進することで問題解決を図る。 5) 慢性心不全看護に携わる看護師に対してカンファレンスや事例検討の場を通して、指導・相談対応を行う。	180
実 習				小計 270

		共通科目	135	時間	(+15 時間)	
		専門科目	255	時間		
		演習／実習	90／180	時間		
		総時間数	660	時間	(+15 時間)	